

国際構造コンクリート連合ミーティングへの参加報告

菊田 悦二

1. はじめに

2018年12月6～8日にドイツ・カールスルーエ市で開催された国際構造コンクリート連合（fib）タスクグループミーティングに参加し、コンクリートに関する国際基準等の動向に関する情報収集の機会を得ましたので報告します。

2. 国際構造コンクリート連合（fib）について

fibでは、コンクリートに関する国際的な基準書として世界各国の技術団体や専門家、研究者に活用されている「fibモデルコード2010」の2020年の改訂を目指した検討が行われています。

この検討は、検討対象ごとに9つのコミッションとこれらに属する50以上のタスクグループの体制下で行われており、この中でタスクグループ3.4では、既設コンクリート構造物を対象としたコミッションの中で「既設コンクリート構造物に対する対策の選択と実施（Selection and implementation of interventions）」を検討対象としており、座長は北海道大学大学院工学研究科の上田多門教授が務めています。

当研究所では、コンクリート構造物に関する点検・診断・評価、補修・補強技術について長年研究してきた知見を以て、国際貢献や新たなfibモデルコードへの研究成果の反映を図るため、タスクグループ3.4に参画しています。

3. モデルコード改訂に向けた検討

今回カールスルーエ市では、各タスクグループの主要メンバーが一堂に会し、各タスクグループが改訂を担当する各セクションのファーストドラフト（初稿）について代表者が発表を行い、議論を深めることを目的としてタスクグループ10.1ミーティングがカールスルーエ工科大学において開催されました（写真-1）。

タスクグループ10.1はfibモデルコード改訂作業における各コミッション・タスクグループ間の調整役であ



写真-1 タスクグループミーティングが行われたカールスルーエ工科大学

り、各コミッション・タスクグループの主要メンバーが参加しているタスクグループです。

筆者の執筆担当分を含むタスクグループ3.4の担当セクションである「Interventions」（対策）についても、具体的な内容が初めてモデルコード改訂に係る主要メンバーに対して示されることになり、ミーティングの開催に先立って各サブセクションのファーストドラフトを集約してタスクグループ10.1ミーティングにおいて発表を行うこととなりました。

筆者は補修工法の選定に関するサブセクションである「Selection of interventions」（対策の選択）の執筆を担当しており、これまでの検討を踏まえて作成した同サブセクションのファーストドラフトを提供しました。

4. タスクグループ3.4および10.1ミーティングへの参加

カールスルーエ市においては、タスクグループ10.1ミーティングの前日にタスクグループ3.4メンバーの間で発表内容および資料についてのミーティングを行い、筆者は同ミーティングおよびタスクグループ10.1ミーティングに参加しました。

タスクグループ10.1ミーティングでは、Convener（議長）でありタスクグループ3.4メンバーでもあるMatthews教授からのfib Model Code改訂に関する活動報告に続き、各タスクグループの代表者から各セクションのファーストドラフトについて発表がなされました。参加メンバーからは発表内容に関する質問のほか、関連が深い他セクションとの整合性等について活発な議論が2日間に渡って行われました（写真-2）。



写真-2 タスクグループ10.1ミーティングの様子

タスクグループ3.4からは、同タスクグループのSecretaryである長岡技術科学大学・下村匠教授から「Interventions」の執筆内容について発表がなされました。また、筆者が執筆を担当した「Selection of interventions」についても筆者が提供した資料を基に改訂の経緯や主旨も含めてミーティングに参加しているfibの主要メンバーらに対して紹介されました（写真-3）。

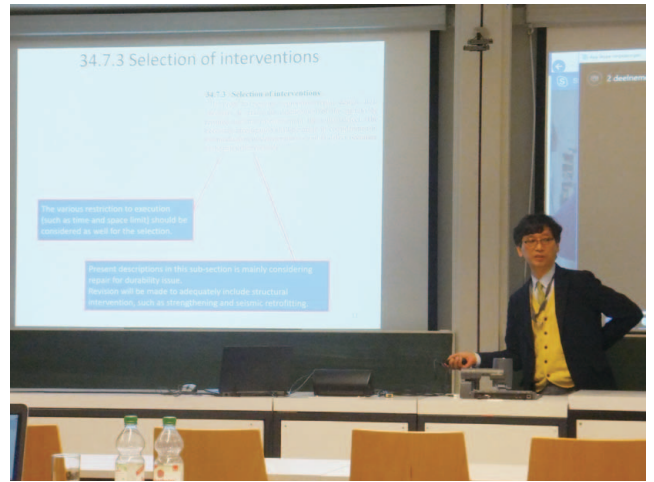


写真-3 「Interventions」について発表する下村匠教授

5. おわりに

fibでは、新たなモデルコードに関して、2020年度にファイナルドラフト（最終草案）として取りまとめることとしており、その前年となる2019年度には各タスクグループからの提案事項が技術資料として取りまとめられます。

また、各種補修・補強工法についての紹介を行う技術資料（bulletin）「Compendium for Interventions on Concrete Structures」についても2018年度中に各執筆担当者からファイナルドラフトが集約され、当所からはこれまでの研究成果を基に、ひび割れ注入工法（Injection for sealing concrete cracks）の工法紹介およびケーススタディとシラン系表面含浸材（Hydrophobic impregnation of concrete surfaces）のケーススタディを作成し、事務局に対して提供したところであり、2019年度も引き続きモデルコード改訂に関する取り組み等を通じて国際貢献を図っていきます。



菊田 悦二
KIKUTA Etsuji

寒地土木研究所
寒地保全技術グループ
耐寒材料チーム
総括主任研究員
技術士（建設）